

② 認知症って何？ どうなるの？



2-1 認知症とは

認知症とは、様々な原因により、脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなることにより、認知機能が低下し、日常生活や社会生活に支障をきたす状態をいいます。
誰でも認知症になる可能性があります。



2-2 認知症のタイプと特徴

① アルツハイマー型認知症

脳内にたまった異常なたんぱく質により脳の細胞のはたらきが徐々に失われて、脳が萎縮していきます。機能が全般的に低下していきます。

【特徴】

- ゆっくり進行
- 軽度の物忘れから進行していき、やがて時間や場所の感覚がわからなくなる
- 人格が変わってしまうことがある

② 脳血管性認知症

脳の血管が詰まったり(脳梗塞)、破れたり(脳出血)することで、病気が起きた部分の脳の細胞の働きが失われることで発症します。損傷を受けた部分の機能は低下しますが、脳全体の機能が低下することは少ないです。

【特徴】

- 脳血管疾患を繰り返すことで段階的に進行する。再発を防ぐことで進行を予防できる
- 体に麻痺など生じることもある ● 機能低下はただちに起こる
- 気分が落ち込み、何かをしようとする意欲が下がる

③ レビー小体型認知症

脳内に「レビー小体」という特殊なたんぱく質がたまり、脳の細胞の働きが失われます。手足の震え、筋肉の硬直などがみられます。現実には見えない虫や小動物などが見えたり(幻視)、自律神経に障害が出ます。

【特徴】

- 機能低下は全般に進む ● 被害妄想が起こりやすい
- 人格は比較的保たれる ● うつ状態になる場合もある
- 手足の震え、筋肉の硬直などパーキンソン病に似た症状が現れる

④ 前頭側頭型認知症

脳の司令塔役の前頭葉と側頭葉を中心に脳が萎縮していきます。

【特徴】

- 我慢や思いやりなどの社会性を失う ● 同じパターンの行動を繰り返す
- 「我が道を行く」行動が目立つ(周りの空気が読めない、勝手気ままな行動をするなど)
- 物の名前が分からなくなったり、誰の顔が分からなくなる場合や、言葉のしゃべりづらさなどがある場合もある

軽度認知障害(MCI)

日常生活に支障をきたすほどでもないが、記憶障害と軽度の認知障害が認められる中間的な段階です。その後、認知症へ移行する場合や、この状態にとどまったり、回復する場合があります。

若年性認知症

65歳未満で認知症を発症した場合を「若年性認知症」といいます。

多くの人は現役で仕事や家事をしているので、認知機能が低下すれば支障が出て、気づかれやすいと考えられます。しかし、実際には認知症のせいとは思わず、診断までに時間がかかることもあります。